R&I グリーンボンドアセスメント／セカンドオピニオン

株式会社カンポ
グリーンボンド：GA1

2020 年 8 月 25 日

格付企画調査室 ESG 評価部
担当アナリスト：税所さやか

格付投資情報センター（R&I）はカンポが行う資金調達につき、「グリーンボンド原則 2018」及び「環境省グリーンボンドガイドライン 2020 年版」に適合していることを確認するとともに、R&I グリーンボンドアセスメントを付与いたしました。

■R&I グリーンボンドアセスメント概要

評　価　対　象	株式会社カンポ第 4 回無担保社債 （株式会社滋賀銀行保証付・適格機関投資家限定）
資　金　使　途	エネルギー効率 汚染の防止及び管理
評　価	GA1

【項目別評価】

項　目	評　価
調達資金の使途	
プロジェクトの評価と選定のプロセス	
調達資金の管理	
レポーティング	
発行体の環境活動	

※　各項目を 5 段階で評価し、 （最上位）から （最下位）で表示している。

【総合評価】

調達資金は廃プラスチックなどを燃料として再利用する RPF の製造設備の更新投資に充てられる。エネルギー効率の高い設備に入れ替えることにより、RPF 搬出量の増加を図るとともに、その生産プロセスでの CO2 排出量の削減にも取り組む。工場の運転時に想定されるネガティブな影響を特定して適切に対応する。地球との共生を掲げた当社の環境理念に沿って選定されたプロジェクトといえる。調達資金は適切に管理され、資金充当状況を報告する。工場の CO2 削減量について発行時に期待される効果を開示し、発行後は年に 1 度実績値を報告することは高く評価できる。

以上より R&I はグリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと評価し、GA1 を付与した。

株式会社格付投資情報センター
Copyright(C) 2020 Rating and Investment Information, Inc. All rights reserved.

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目２２番地テラススクエア（お問い合わせ）マーケティング本部　カスタマーサービス部　TEL 03-6273-7471

R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&I グリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメント（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html をご覧下さい。

©Rating and Investment Information, Inc.

■セカンドオピニオン概要

(1)調達資金の使途

グリーンボンドで調達された資金は、環境負荷削減効果の高い RPF（古紙及び廃プラスチック類を原料とした高品位の固形燃料）製造装置の更新投資に全額充当される。加えて新設備の導入により省エネルギー効果（CO2 削減効果）が見込めることから、資金使途は「汚染の防止及び管理」、「エネルギー効率」に該当する。工場の運転時において環境影響への配慮がなされている。環境問題の解決に資する度合いは高い。

(2)プロジェクトの評価と選定のプロセス

対象プロジェクトは、地球との共生を目指すカンポグループの環境理念に沿って選定されている。プロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的である。

(3)調達資金の管理

調達資金を追跡管理できる体制となっている。証憑文書等は社内規程に基づき保管され、未充当資金は現金または現金同等物、短期金融資産等で運用するなど適切な対応を定めている。

(4)レポーティング

発行時に設備更新による CO2 削減効果が開示される。発行後は年に 1 度、資金充当状況、CO2 削減量、RPF 搬出量を開示する。レポーティングは適切である。

R&I グリーンボンドアセスメントの評価方法は以下のウェブサイトに掲載しています。
https://www.r-i.co.jp/rating/products/esg/index.html

Ⅰ．発行体について

1．発行体の概要

カンポは京都に本社を置く産業廃棄物収集・運搬、産業廃棄物中間処理業者。1968 年の創業以来、関西を中心に循環型社会の形成に向けて廃棄物の再資源化事業に取り組んできた。産廃物の収集運搬、中間処理、コンサルティングのほか、固形燃料の RPF（Refuse derived paper and plastics densified Fuel）を製造している。2007 年に持株会社制に移行した。カンポホールディングス（以下カンポ HD）傘下のカンポ、テックス・カンポ、アシストカンポが、それぞれ産業廃棄物処理、一般廃棄物処理・有価物回収など専門分野で個性を活かし、グループ全体で積極的な環境保全事業を展開している。

2．発行体の環境活動

- カンポは 1995 年に固形燃料 RPF の製造を始め、1997 年に京都で開催された第 3 回気候変動枠組条約締約国会議（COP3）に出展し、環境負荷低減効果及び廃プラの適正処理を実現する RPF を紹介した。2001 年に ISO14001 を取得、2005 年に国内最大級の RPF 製造工場「エナジーカンポ 2」を設立、2011 年に JIS（日本工業規格）工場として認証を受けるなど高品質な RPF の製造に取り組んでいる。

Ⅱ．セカンドオピニオン（適合性確認）

1．調達資金の使途

(1)対象プロジェクト

- 調達資金は JIS 工場として認証を受けた RPF 製造設備「エナジーカンポ 2」の更新に全額充当される。新設備は 2020 年 9 月に稼働予定。

- RPF は主に産業系廃棄物のうち、溶かして成形品として再生するマテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料である。RPF の最大の特徴は、発生履歴が明らかな産業廃棄物を原料として使用しているため、不純物の混入が少ない点にある[1]。2010 年に制定された JIS で品質は定められており、含有する塩素濃度の低い順に A、B、C の 3 等級に分けられている[2]。プラスチックを含むため熱量が多く低価格であるため、製紙会社、鉄鋼会社、染色会社など多くの産業で利用されている[3]。主に石炭やコークス等、化石燃料の代替として利用されているが、石炭を利用する場合と比べて環境負荷削減効果は高い[4]。さらに灰化率（燃焼させて同一熱量を発生させた場合に回収される灰の量）が低く、同一熱量に対する灰の埋め立て処分量を大幅に削減できる[5]。未だ化石燃料に対する依存度が高く国土が狭い日本にとって、環境にやさしく最終処分場問題にも応える貴重な燃料源の一つであるといえる。

- カンポは RPF の JIS が制定される前の 1995 年から製造に携わってきた。2005 年に日本最大級の RPF 製造設備「エナジーカンポ 2」を稼働させ、2011 年に JIS 認証を取得してからは、環境負荷の低い A 等級と B 等級を中心に製造している。老朽化が進んだ「エナジーカンポ 2」を更新するために、今般グリーンボンドフレームワークを策定し、グリーンボンドの調達資金を充てる。高効率設備の導入により RPF 製造に要する電力量を減少させ、省エネルギーおよび CO2 排出量の抑制を図る。また、RPF 搬出量を増加させることで、廃プラスチック等の適正処理を推進し、「汚染の防止及び管理」に資することを企図する。

- 調達資金の使途はグリーンボンド原則における「エネルギー効率」、「汚染の防止及び管理」に該当する。調達資金の使途はグリーンボンドフレームワークに記載されており、リファイナンスに充てる予定はない。調達資金の使途に関する概略は、当社のグリーンボンドフレームワークに記載されている。

(2)環境改善効果

- エネルギー効率

  効率性のよい新設備の導入により RPF 製造に要する電力量を減少させることで、省エネルギーおよび CO2 排出量を削減する効果が期待できる。カンポは、年間約 132t-CO2 の環境改善効果を見込んでいる。

- 汚染の防止及び管理

  RPF の搬出量の増加により、廃プラスチック等の適正処理を推進する。

---

[1] 自治体が収集する不特定多数の排出元による生ごみを含む可燃ごみを材料とする RDF（Refuse Derived Fuel）とは異なる。一般社団法人日本 RPF 工業会（JRPF）ホームページ（http://www.jrpf.gr.jp/）を参照。
[2] 一般財団法人日本規格協会「廃棄物由来の紙、プラスチックなど固形化燃料（RPF)」として 2010 年に制定された。
[3] JRPF ホームページを（http://www.jrpf.gr.jp/rpf-1）参照。
[4] 同一熱量回収を行う過程で、石炭よりも約 33%の CO2 排出量低減効果があるなど、環境負荷削減効果が高いと言われている。JRPF ホームページ（http://www.jrpf.gr.jp/rpf-7）、一般社団法人日本化学工業協会ホームページ掲載の海洋プラスチック問題対応協議会（JaIME)による「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA)」（https://www.nikkakyo.org/news/page/7599）を参照。
[5] RPF の灰化率は石炭と比べ 3 分の 1 程度。JRPF ホームページ（http://www.jrpf.gr.jp/rpf-7）を参照。

(3)環境面・社会面におけるネガティブな影響への配慮

- カンポは想定される環境リスクとして 3 要素を特定し、法令を順守した適正な環境保全措置をとっている。また、環境法令等や自治体が定める条例に則り、環境影響評価を実施している。騒音対策としては防音シャッターを有する建屋内で処理を行い、振動対策は工場建設時の地盤固めで対応している。工場の臭気の漏洩にはオゾン脱臭機や集塵機を設置するといった対策をとっている。

想定される環境リスク	主な環境保全措置
騒音の発生	条例に従い騒音レベルを測定し、規制基準を下回っていることを確認。
振動の発生	条例に従い振動レベルを測定し、規制基準を下回っていることを確認。
大気汚染	廃棄物の種類や形状に合わせた車両により、廃棄物の飛散流出、臭気の漏洩の無いよう努める。

グリーンボンドで調達された資金は、環境負荷削減効果の高い RPF（古紙及びプラスチック類を原料とした高品位の固形燃料）製造装置の更新投資に全額充当される。加えて新設備の導入により省エネルギー効果（CO2 削減効果）が見込めることから、資金使途は「汚染の防止及び管理」、「エネルギー効率」に該当する。工場の運転時において環境影響への配慮がなされている。環境問題の解決に資する度合いは高いと判断した。

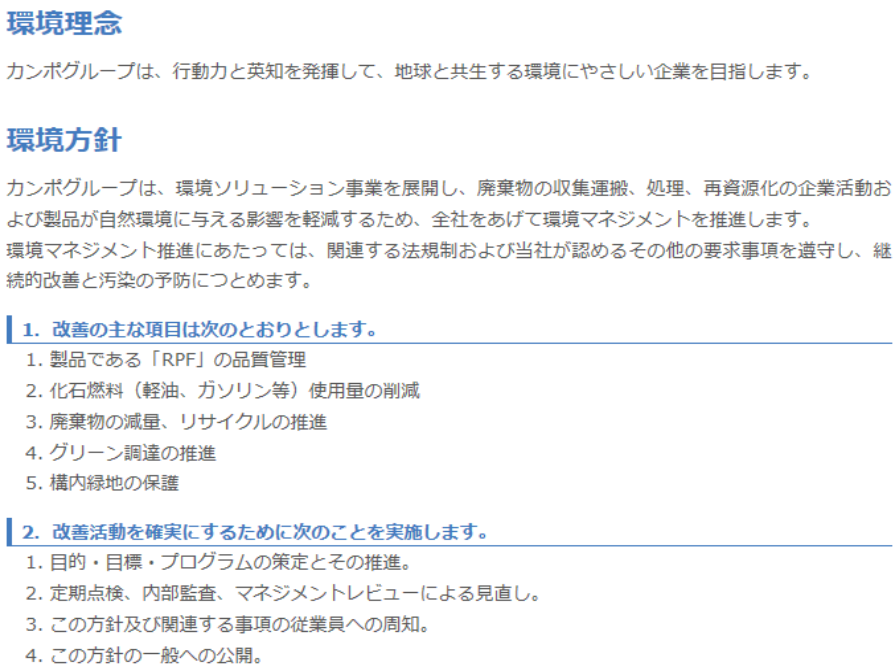
［出所：カンポグループウェブサイト］

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

(1)包括的な目標、戦略等への組み込み

- カンポグループは以下に示す環境理念の下で、ISO14001 に基づく環境マネジメントシステムを社内に構築し、PDCA サイクルに基づく環境への取り組みを進めている。さらに、RPF の製造、太陽光発電や有価物の徹底選別などの事業を通じて、環境への取り組みを積極的に行っている。

- 環境理念、環境方針は以下の通り。



環境理念

カンポグループは、行動力と英知を発揮して、地球と共生する環境にやさしい企業を目指します。

環境方針

カンポグループは、環境ソリューション事業を展開し、廃棄物の収集運搬、処理、再資源化の企業活動および製品が自然環境に与える影響を軽減するため、全社をあげて環境マネジメントを推進します。
環境マネジメント推進にあたっては、関連する法規制および当社が認めるその他の要求事項を遵守し、継続的改善と汚染の予防につとめます。

1. 改善の主な項目は次のとおりとします。
   1. 製品である「RPF」の品質管理
   2. 化石燃料（軽油、ガソリン等）使用量の削減
   3. 廃棄物の減量、リサイクルの推進
   4. グリーン調達の推進
   5. 構内緑地の保護

2. 改善活動を確実にするために次のことを実施します。
   1. 目的・目標・プログラムの策定とその推進。
   2. 定期点検、内部監査、マネジメントレビューによる見直し。
   3. この方針及び関連する事項の従業員への周知。
   4. この方針の一般への公開。

［出所：カンポグループウェブサイト］

- カンポは部署ごとに環境目的・目標を定め、実績を評価し、次の目標を立てるといった PDCA サイクルを実践している。

- 調達資金を充当するプロジェクト（RPF 製造設備の更新）は、環境目標「RPF 搬出量」の達成に資するものであると位置づけている。

部門	環境目的	環境目標（令和 3 年 3 月まで）
処理部	**RPF の品質管理**	**RPF 搬出量　年間 3,200t**
	再資源化比率アップ（リサイクル率の向上）	ペットボトル分別量　年間 610t
滋賀事業所	**RPF の燃料化比率アップ（リサイクル率の向上）**	**RPF 搬出量　年間 5,700t**
	排出ガス濃度の抑制	1 時間平均自主管理基準値の厳守
運搬部	車両用軽油使用量の削減	業務車両の平均燃費 4.77km/L
	省エネ運転の励行	デジタルタコグラフ評価点　98 点
管理部	グリーン調達の推進	事務用品のグリーン調達率　61%
営業部	営業車両ガソリン使用量の削減	営業車両の平均燃費　15.0km/L

(2)プロジェクトの評価・選定の判断規準

- 持株会社のカンポ HD がグループ全体の最適化戦略策定と監督機能を担う。傘下の事業会社にそれぞれの事業執行に必要な権限と責任が移譲されており、事業会社の自己責任経営の実現、意思決定の迅速化、各事業の競争力強化を図っている。

- 新規に採用する技術・設備を選定する際は、事業会社の代表取締役社長、設備管理部、処理部及びカンポ HD の管理部総務課、財務会計課が協議し、環境面、経済面、財務面から類似技術との比較を通じて重要な要素を特定し、その都度、技術・設備の選定基準を検討、一次評価を行う。最終判断はカンポ HD の取締役会でなされる。

- 効率性の高い RPF 製造設備導入にあたっては、カンポの代表取締役社長を中心に上記所管が協議し、①既存の RPF 製造設備と比較して、製造に必要な単位当たり電力使用量を減少させること、②単位時間当たりの製造能力を高めること――の 2 つの選定基準が設けられた。一次評価の後、カンポ HD の取締役会で最終決定された。

資金使途となる技術・設備	技術・設備の選定基準
効率性の高い RPF 製造設備導入	① 既存の RPF 製造設備と比較して、製造に必要な単位当たり電力使用量を減少させること。 ② 単位時間当たりの製造能力を高めること。

(3)プロジェクトの評価・選定の判断を行う際のプロセス

- 調達資金を充当するグリーンプロジェクトの選定にあたっては、処理部が起案し、カンポグループの環境方針への適合性、環境目的・目標への貢献性、環境改善効果がもたらされる蓋然性を考慮し、総合評価を行った。最終選定されたプロジェクトはカンポの社長が決裁した。

対象プロジェクトは、地球との共生を目指すカンポグループの環境理念に沿って選定されている。プロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的である。

3. 調達資金の管理

- 調達資金の追跡管理の方法および未充当資金の運用方法は、グリーンボンドフレームワークに記載され、投資家に事前に説明される。
- 社債の発行・償還はカンポが実施し、調達資金の追跡管理はカンポ HD 管理部が行う。調達資金総額、プロジェクトへの充当済資金、未充当資金は、会計上区別された補助勘定を設けて管理される。全ての調達資金が充当された後は、調達資金全額がプロジェクトへの累計充当額を下回らないように管理される。これらの確認は年次で実施される。
- 未充当資金は現金または現金同等物、短期金融資産等で運用される。
- 調達資金に関連する証憑となる文書等については、カンポの規定に基づき適切に管理される。

調達資金を追跡管理できる体制となっている。証憑文書等は社内規程に基づき保管され、未充当資金は現金または現金同等物、短期金融資産等で運用するなど適切な対応を定めている。

4. レポーティング

(1)開示の概要

- レポート方法

  カンポは、本社債による調達資金のプロジェクトに対する充当状況や環境改善効果等についての最新の情報を、以下のスケジュールで当社ウェブサイトにて一般に開示する。また、社債による全ての調達資金がプロジェクトに充当された後においても、大きな状況の変化が生じた場合は、適宜開示する。

  ①発行時レポート：本社債が発行された直後に実施
  ②年度レポート：本社債の償還までの間、年に 1 度実施

- 開示内容

  レポートには以下の内容を含む予定。環境改善効果の算定に当たっては、フレームワークで定義した算定方法に則り、適切に実施する。

  ・調達資金を充当したプロジェクトのリスト
  ・プロジェクトの概要（進捗状況を含む）
  ・プロジェクトに充当した資金の額
  ・未充当資金の額、資金充当の予定、未充当資金の運用方法
  ・グリーンプロジェクトによる環境改善効果（CO2 排出削減量）

- レポーティング体制

  発行時レポートおよび年度レポートは、カンポ HD 管理部が主管として作成する。また調達資金に関する情報収集・記載事項の確認も、カンポ HD 管理部が実施する。環境改善効果に関する情報収集は、カンポの設備管理部や処理部が担当し、カンポ HD 管理部が記載事項の確認を実施する。環境改善効果の算定等に当たっては、独立した第三者機関より助言を受ける予定である。

(2)環境改善効果に係る指標、算定方法等

- レポーティングにおいては、CO2 排出削減量および RPF 搬出量を開示する。CO2 排出削減効果の算定方法は、以下の通り。

設備効率化による CO2 排出量削減	
算定方法	プロジェクト実施前の設備（更新前設備）によるエネルギー使用量と、プロジェクト実施後設備によるエネルギー使用量を比較して算出。
算定式	**[CO2 排出量の削減量(tCO2/年)]=[更新前設備による CO2 排出量(tCO2/年)]-[新設備による CO2 排出量(tCO2/年)]** **[更新前設備による CO2 排出量(tCO2/年)]**＝（更新前設備 CO2 原単位（t-CO2/t）×更新後年間 RPF 生産量（t）） ※更新前設備 CO2 原単位（t-CO2/t）=（更新前年間使用電力量（kWh）×電力排出係数（kg-CO2/kWh）÷1,000）÷更新前年間 RPF 生産量（t） **[新設備による CO2 排出量(tCO2/年)]**＝更新後年間使用電力量（kWh）×電力排出係数（kg-CO2/kWh）÷1,000

発行時に設備更新による CO2 削減効果が開示される。発行後は年に 1 度、資金充当状況、CO2 削減量、RPF 搬出量を開示する。レポーティングは適切である。

Ⅲ．R&I グリーンボンドアセスメント

項目別評価	評価	評価のポイント
調達資金の使途		対象事業は、十分な環境改善効果が見込めるほか、環境面における潜在的にネガティブな効果に配慮がなされる。環境問題の解決に資する程度は妥当であると判断した。
プロジェクトの評価と選定のプロセス		プロジェクトの評価と選定のプロセスは明確かつ合理的であり、優れている。
調達資金の管理		調達資金の管理方法は適切に定められており、優れている。
レポーティング		レポーティングは資金使途となる工場に期待される CO2 削減効果、資金充当状況、削減実績値（年次）が予定されており、特に優れている。
発行体の環境活動		環境に関する方針を定め、廃棄物処理業者として長年、環境保全に取り組んでいる。発行体の環境活動への取り組み姿勢は優れている。

※　各項目を 5 段階で評価し、 （最上位）から （最下位）で表示している。

R&I グリーンボンドアセスメント	GA1
総合評価	調達資金は廃プラスチックなどを燃料として再利用する RPF の製造設備の更新投資に充てられる。エネルギー効率の高い設備に入れ替えることにより、RPF 搬出量の増加を図るとともに、その生産プロセスでの CO2 排出量の削減にも取り組む。工場の運転時に想定されるネガティブな影響を特定して適切に対応する。地球との共生を掲げた環境理念に沿って選定されたプロジェクトと言える。調達資金は適切に管理され、資金充当状況を報告する。工場の CO2 削減量について発行時に期待される効果を開示し、発行後は年に 1 度実績値を報告することは高く評価できる。 以上より R&I はグリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと評価し、GA1 を付与した。

以　上

【留意事項】
R&I の R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する R&I の意見です。R&I グリーンボンドアセスメントでは、グリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを付随的に提供する場合があります。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。
R&I グリーンボンドアセスメントは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&I は R&I グリーンボンドアセスメントを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。
R&I が R&I グリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報は、R&I がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&I は、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&I は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。
R&I は、資料・情報の不足や、その他の状況により、R&I の判断で R&I グリーンボンドアセスメントを保留したり、取り下げたりすることがあります。
R&I は、R&I が R&I グリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報、R&I の R&I グリーンボンドアセスメントその他の意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報や R&I グリーンボンドアセスメントの使用、あるいは R&I グリーンボンドアセスメントの変更・保留・取り下げ等に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何や R&I の帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。
R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。

【専門性・第三者性】
R&I は 2016 年に R&I グリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017 年から ICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018 年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。
R&I の評価方法、評価実績等については R&I のウェブサイト（https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html）に記載しています。
R&I と資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。

グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム

独立した外部レビューフォーム

セクション 1.　　基本情報

発行体名：株式会社カンポ

グリーンボンドの ISIN 又は 発行体のグリーンボンド発行に関するフレームワーク名（該当する場合）：

独立した外部レビュー実施者名：格付投資情報センター

本フォーム記入完了日： 2020 年 8 月 25 日

レビュー発表日：2020 年 8 月 25 日

セクション 2.　　レビュー概要

レビュー範囲

必要に応じて、レビューの範囲を要約するために以下の項目を利用又は採用する。

本レビューでは、以下の要素を評価し、グリーンボンド原則（以下、GBP）との整合性を確認した：

☒　調達資金の使途
☒　調達資金の管理
☒　プロジェクトの評価と選定のプロセス
☒　レポーティング

独立した外部レビュー実施者の役割

☒　セカンドオピニオン
☐　検証
☐　*その他（ご記入ください）：*
☐　認証
☒　スコアリング/レーティング（格付け）

注記：複数のレビューを実施又は異なる複数のレビュー実施者が存在する場合、それぞれ別々の用紙にご記入ください。

レビューのエグゼクティブサマリおよび／またはレビュー全文へのリンク *（該当する場合）*

【R&I グリーンボンドアセスメント】
R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、グリーンボンドの調達資金が環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1（本評価）を付与した。

【グリーンボンド原則等に適合する旨のセカンドオピニオン】
また、グリーンボンドフレームワークがグリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2020 年版に則ったものである旨のセカンドオピニオンを提供する。

レビュー全文は、本リリースの本文を参照。

セクション 3.　　レビュー詳細

レビュー実施者には可能な限り以下の情報を提供し、レビュー範囲を説明するためにコメントセクションを利用するよう推奨する。

1. 調達資金の使途

セクションに関する全般的なコメント *（該当する場合）*：
＜フレームワークについて＞
R&I は、（1）対象プロジェクトから十分な環境改善効果が見込めること、（2）環境面・社会面における潜在的にネガティブな影響への配慮がなされていることを確認し、調達資金の使途は妥当と判断した。
グリーンボンドで調達された資金は、環境負荷削減効果の高い RPF（古紙及び廃プラスチック類を原料とした高品位の固形燃料）製造装置の更新投資に全額充当される。加えて新設備の導入により省エネルギー効果（CO2 削減効果）が見込めることから、資金使途は「汚染の防止及び管理」、「エネルギー効率」に該当する。工場の運転時において環境影響への配慮がなされている。環境問題の解決に資する度合いは高い。

以上より、調達資金の使途は、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2020 年版に適合していると判断した。

＜グリーンボンドについて＞
対象事業は、十分な環境改善効果が見込めるほか、環境面における潜在的にネガティブな効果に配慮がなされる。環境問題の解決に資する程度は妥当であると判断した。

GBP による調達資金の使途カテゴリ：

☐	再生可能エネルギー	☒	エネルギー効率
☒	汚染防止および管理	☐	生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管理
☐	陸上および水生生物の多様性の保全	☐	クリーン輸送
☐	持続可能な水資源および廃水管理	☐	気候変動への適応
☐	高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス	☐	グリーンビルディング（環境配慮型ビル）
☐	発行時には知られていなかったが現在 GBP カテゴリへの適合が予想されている、又は、GBP でまだ規定されていないその他の適格分野	☐	その他*（ご記入ください）*：

GBP の事業区分に当てはまらない場合で、環境に関する分類がある場合は、ご記入ください：

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

セクションに関する全般的なコメント（*該当する場合*）：

＜フレームワークについて＞

対象プロジェクトは、地球との共生を目指すカンポグループの環境理念に沿って選定されている。プロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的である。

以上より、対象事業の選定のプロセスは、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2020 年版に適合していると判断した。

＜グリーンボンドについて＞

プロジェクトの評価と選定のプロセスは明確かつ合理的であり、優れている。

評価と選定

- ☒ 十分な発行体の環境面での持続可能性に係る目標がある
- ☒ グリーンボンドの適格プロジェクトを定義した透明性の高いクライテリアがある
- ☒ プロジェクトの評価と選定のためのクライテリアの概要が、公表される
- ☒ 文書化されたプロセスにより、定義された事業区分にプロジェクトが適合すると判断される
- ☒ 文書化されたプロセスにより、プロジェクトに関連する潜在的な ESG リスクは特定・管理される
- ☐ その他（*ご記入ください*）：

責任およびアカウンタビリティに関する情報

- ☐ 外部機関の助言または検証を受けた評価／選定基準である
- ☐ その他（*ご記入ください*）：
- ☒ 組織内で定められた評価基準である

3. 調達資金の管理

セクションに関する全般的なコメント（*該当する場合*）：
＜フレームワークについて＞
調達資金を追跡管理できる体制となっている。証憑文書等は社内規程に基づき保管され、未充当資金は現金または現金同等物、短期金融資産等で運用するなど適切な対応を定めている。

以上より、調達資金管理の方針は、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2020 年版に適合していると判断した。

＜グリーンボンドについて＞
調達資金の管理方法は適切に定められており、優れている。

調達資金の追跡管理：

☒ グリーンボンドの調達資金は、発行体により適切な方法で分別又は追跡管理される
☒ 未充当資金について、想定される一時的な運用方法の種類が開示される
☐ その他（*明記ください*）：

追加的な開示：

☐ 将来の投資にのみ充当
☒ 個別単位の支出に充当
☐ 未充当資金のポートフォリオを開示する
☒ 既存および将来の投資に充当
☐ ポートフォリオ単位の支出に充当
☐ その他（*ご記入ください*）：

4. レポーティング

セクションに関する全般的なコメント *（該当する場合）*：
＜フレームワークについて＞
発行時に設備更新による CO2 削減効果が開示される。発行後は年に 1 度、資金充当状況、CO2 削減量、RPF 搬出量を開示する。レポーティングは適切である。

以上より、レポーティングは、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2020 年版に適合していると判断した。

＜グリーンボンドについて＞
レポーティングは資金使途となる工場に期待される CO2 削減効果、資金充当状況、削減実績値（年次）が予定されており、特に優れている。

調達資金の使途に関するレポーティング：

☒ プロジェクト単位　　☐ プロジェクトポートフォリオ単位

☐ 個別債券単位　　☐ その他 *（明記ください）*：

レポーティングされる情報：

☒ 充当した資金の額　　☒ 投資総額に占めるグリーンボンドによる調達額の割合

☐ その他 *（明記ください）*：

頻度：

☒ 年次　　☐ 半年に一度

☐ その他 *（明記ください）*：

環境改善効果に関するレポーティング：

☒ プロジェクト単位　　☐ プロジェクトポートフォリオ単位

☐ 個別債券単位　　☐ その他 *（明記ください）*：

頻度：

☒ 年次　　☐ 半年に一度

☐ その他 *（明記ください）*：

レポーティングされる情報（計画又は実績）：

☐ 温室効果ガス排出量／削減量　　☒ エネルギー削減量

☐ 水使用量の減少　　☒ その他 ESG 指標 *（明記ください）*：RPF 搬出量

開示方法

☐ 財務報告書に掲載　　☐ サステナビリティ報告書に掲載

☐ 臨時に発行される文書に掲載　　☒ その他（*明記ください*）：ウェブサイト

☐ レポーティングは外部レビュー済（*該当する場合は、レポートのどの部分が外部レビューの対象であるか明記してください*）：

該当する場合は、「有益なリンク」のセクションに、報告書の名称、発行日を明記してください。

有益なリンク　*（例えば、 レビュー実施者の評価方法や実績、発行体の文書等。）*

R&I グリーンボンドアセスメント評価方法 https://www.r-i.co.jp/rating/products/esg/index.html

該当する場合は、利用可能なその他外部レビューをご記入ください
実施されるレビューの種類：

☐ セカンドオピニオン　　☐ 認証

☐ 検証　　☐ スコアリング/レーティング（格付け）

☐ その他（*ご記入ください*）：

レビュー実施者：　　**発表日：**

GBP で定義された独立した外部レビュー機関の役割について

(i) セカンドオピニオン : 発行体の支配下にない環境面の専門性を有する機関がセカンドオピニオンを提供する。オピニオンの提供者は発行体のグリーンボンドフレームワーク構築のためのアドバイザーから独立しているべきである。そうでなければ情報隔壁を設けるなど、セカンドオピニオンの独立性を確保するための措置をとることになる。オピニオンは通常は GBP への適合性評価を基本とする。特に環境面での持続可能性に関する包括的な目標、戦略、方針、プロセスの評価と、調達資金を充当するプロジェクトの種類に応じた環境面の特徴に対する評価を含むことができる。

(ii) 検証 : 発行体は、事業プロセスや環境基準などに関連づけて設定する基準に対して独立した検証を受けることができる。検証は、内部基準や外部基準あるいは発行体が作成した要求との適合性に焦点を当てるものになる。また原資産の環境面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することがある。さらにグリーンボンドで調達される資金の内部追跡管理方法とその資金の充当状況、環境面での影響、GBP のレポーティングとの適合性に関する保証や証明も検証と呼ぶことがある。

(iii) 認証 : 発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンドフレームワーク、または調達資金の使途について、一般に認知されているグリーン基準やグリーンラベルへの適合性に係る認証を受けることができる。グリーン基準やグリーンラベルは具体的なクライテリアを定義したもので、通常は認証クライテリアとの適合性を、検証などの手法を用いて、資格認定された第三者機関が確認する。

(iv) スコアリング/レーティング（格付）：発行体は、グリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、調達資金の使途などの特徴について、専門的な調査機関や格付機関の資格を有する第三者機関から、それぞれの機関が確立した評価手法に基づく査定や評価を受けることができる。評価結果には、環境面のパフォーマンスデータ、GBP に関連するプロセス、2℃目標のようなベンチマークなどに焦点を当てたものが含まれることがある。このようなスコアリングや格付は、信用格付（たとえその中に重要な環境面のリスクが反映されているとしても）とはまったく異なったものである。